



地方独立行政法人

総合病院 国保旭中央病院

【アクセス】

●電車(八街回り)

JR総武本線「旭」駅下車(特急「しおさい号」は全て停車します)
旭駅より当院までは病院無料バス5分/路線バス5分/徒歩約15分
(千葉以遠より快速等でお越しの場合は千葉駅で乗換が必要です)

●高速バス(旭ルート)

乗車場所:浜松町貿易センタービル、東京駅八重洲口前
「旭中央病院東」または「旭中央病院」下車

●車

千葉から:千葉東金道路「松尾横芝I.C.」→銚子連絡道路「横芝光I.C.」→国道126号線→旭市街へ
東京から:東関東自動車道「大栄I.C.」→国道51号線→県道56号線→県道28号線→旭市街へ

〒289-2511 千葉県旭市イ-1326

TEL 0479-63-8111 FAX 0479-63-8580

URL www.hospital.asahi.chiba.jp/

 地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

【基本理念】

すべては患者さんのために

私たちは地域の皆さまの健康を守るために、常に研鑽に努め、
医学的にも経済的にも社会的にも適正な模範的医療を提供します。

【基本方針】

信頼され選ばれる病院へ

- ・患者さんの権利と尊厳を尊重し、満足と信頼が得られる病院をめざします
- ・常に安全に配慮した医療環境の維持向上に努めます

地域とともに歩む

- ・地域の皆さまの健康を守り、地域医療の向上に努めます
- ・すべての救急医療をいつでも提供できるよう努めます
- ・保健・医療・介護・福祉の連携の核となる病院になります

未来へ向かって

- ・時代の要請に応じた最高水準の先進的な医療を提供する病院をめざします
- ・地方独立行政法人として、自主性・公共性・透明性の高い病院運営を行います
- ・職員の教育・研修の充実を図り、働きやすく、やりがいの持てる環境づくりを推進します

2001年1月(制定) 2017年4月(改訂)



開院から現在まで

今までも、そしてこれからも、私たちは地域の皆様とともに、歩んでまいります。

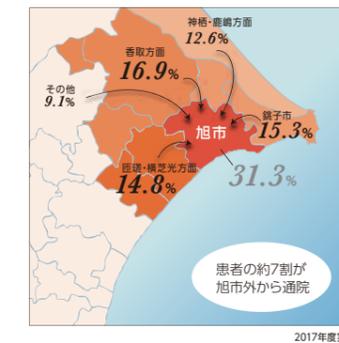
<p>1953年(昭和28年)開院</p>  <p>病床数:113床 医師数:8名 職員数:45名</p>	<p>1963年(昭和38年)</p>  <p>病床数:380床 1964年:千葉県初の高等看護学校併設 1965年:神経精神科開設</p>	<p>1973年(昭和48年)</p>  <p>病床数:620床 1970年:脳神経外科開設 1971年:養護老人ホーム併設 1973年:基幹病院に認定</p>	<p>1988年(昭和63年)</p>  <p>病床数:876床 1979年:公営企業法全部適用 1980年:人工透析センター開設 1981年:臨床研修指定病院 1982年:看護専門学校3年制 特別養護老人ホーム併設 1984年:救命救急センター指定 1985年:新生児医療センター開設 健診センター開設 1989年:老健施設介護老人保健施設併設</p>	<p>2000年(平成12年)</p>  <p>病床数:956床 1996年:災害拠点病院指定 1999年:基幹災害医療センター完成 2005年:市町村合併により 旭市立の公立病院となる 2011年:地上12階建ての新本館を竣工 2016年:地方独立行政法人へ移行</p>
--	---	---	--	---



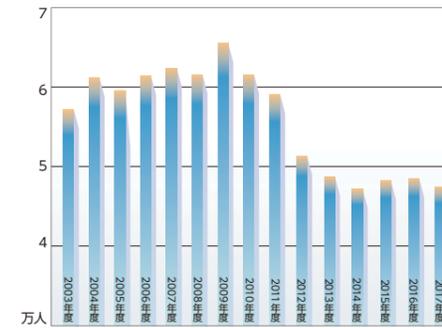
現在

千葉県東部および茨城県南部を含む半径30km圏
(人口約100万人)を診療圏とする、日本有数の
公立病院に成長

地域別外来患者比率



救急外来患者数推移



病院概要

■病床数	989床(一般763/感染6/精神220)
■標榜科目	40科
■全職員数	2,091名
■医師数	253名
■看護師数	921名
■外来患者数	2,512人/日(2017年度)
■救急外来患者数	47,559人(2017年度)
■手術件数	8,468件/年(2017年度)
■入院料	急性期一般入院料1 / 精神科救急入院料1 等
■敷地面積	191,086㎡
■建物延床面積	168,172㎡
■附属施設	旭中央病院附属飯岡診療所 旭中央病院附属看護専門学校 介護老人保健施設シルバークアセンター 養護老人ホーム 東総園 特別養護老人ホーム 東総園 ケアハウス 東総園 訪問看護ステーション旭ところとくらのケアセンター びあハウス

※職員数は2018年4月現在

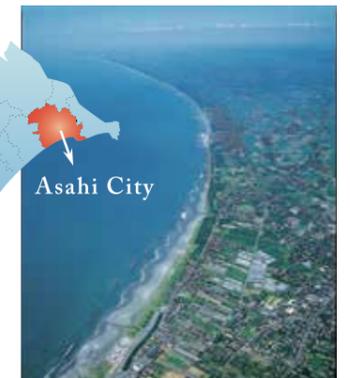
旭市について

太平洋、九十九里海岸を臨む街、千葉県旭市。

旭市は、南部に美しい弓状の九十九里浜、北部に干潟八万石と呼ばれる房総屈指の穀倉地帯が広がっています。平均気温が15℃と温暖な気候から、農業、水産業も盛んです。東総地域の中核都市として今後の発展が期待されています。



●千葉県旭市
都心から80km圏、千葉市から北東に約50kmにある。
南部は九十九里浜に面し、人口は約66,000人。



Asahi City



理事長
吉田 象二
Shouji Yoshida

2016年4月1日から当院は市立病院から地方独立行政法人へ移行しました。この法人は旭市が議会の議決を経て独立した組織として設立したもので、自治体にかわって病院運営を行います。法人に移行しても市立病院としての役割は変わりませんが、市民の皆さまのニーズにより柔軟に、迅速に対応出来るようになることが期待されています。

これまで病院設立以来65年にわたって自治体病院の模範となるべく「すべては患者さんのために」という理念のもと、医学的にも、経済的にも、社会的にも適正な地域医療の実践に心掛けてきましたが、今後の超高齢化、人口減少という激変する社会環境にも耐えられるように、さらに進化した医療提供体制を構築していく予定です。病院運営の点に関しても公共性、経営の透明性、自主性が強化され、診療実績は内外の有識者で構成される評価委員会にて定期的に事業評価が行われます。中期計画のもとで病院運営をすすめておりますが、2年間経過した時点では年度の目標は全て達成され順調に推移しております。

また2017年10月には「医療がつくる地方創生～2025年、その先へ～」のテーマのもと、43年ぶりの千葉県開催となる「全国自治体病院学会」を幕張メッセで開催し、私が学会長、旭中央病院および36の全国自治体病院協議会千葉県支部病院が実行委員を務めました。全国から過去最多となる1,581題の一般演題応募、4,033人の参加者が得られたほか、いずれも全自病学会としては初めてとなる「デジタルポスターセッション」による演題発表、スマートフォンを用いた双方向講座を取り入れるなど、IT技術を駆使した先駆的学会となりました。今回の貴重な経験を今後の病院運営に役立てていく所存です。

これからも住民の皆さんに安心して頂けるように適正な医療介護サービスを展開していきますのでよろしくお願い致します。



病院長
野村 幸博
Yukihiko Nomura

旭中央病院は、1953年の開設以来、地域医療への貢献を責務としてまいりました。さらに地域医療の要となるべく、人材の確保と施設の拡充に努めてまいりました結果、現在では国内有数の規模の自治体病院となりました。このような病院機能の充実、患者さん中心の医療を実践する、という理念のもとに行われたもので、患者さんのさまざまなニーズに対応できる診療体制が整えられています。当院の特長のひとつは、地域基幹病院としての高い総合力であり、以下のような役割を担っています。

- (1) 地域医療においては24時間365日受け入れ可能な救急体制が必須であり、救命救急センターが整備されています。また、災害発生時には基幹災害拠点病院として対応します。
- (2) 高度な急性期医療を提供するために、最新の設備を備えた中央手術室、集中治療室、血管撮影室があり、最先端の放射線治療装置が稼働しています。
- (3) 当院の地域周産期母子医療センターは千葉県で最初に認可されたもので、出産および出産前後の母子の健康管理を行います。
- (4) 認知症の患者さんが増加していることから認知症疾患医療センターが開設されています。
- (5) 地域連携を推進するために地域医療支援センターがあり、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院の認定を受けています。
- (6) 地域の皆さまに清潔で快適な診療空間を提供するため2011年に新本館が竣工しました。
- (7) 2016年より地方独立行政法人に移行し、医療環境の変化や問題に迅速かつ柔軟に対応できるようになりました。

さて、当院のもうひとつの特長として、研修教育病院としての評価が高いことが挙げられます。当院では、「教育のない病院に進歩はない」との考えから、早い時期より研修教育病院としての充実を図ってまいりました。当院での初期研修プログラムには毎年全国から優秀な研修医が集まってきましたし、新専門医制度に対応した専門医プログラムも充実しています。また、スキルセンターや臨床研究支援センターが整備され、積極的に教育活動を行っています。

今後一層“病院力”を高め、患者さんに寄り添った医療を実践していく所存ですので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1



ハイブリッド手術室

高度医療に対応できる施設・設備を完備

集中治療室、救急病棟、血管撮影室、中央手術室を同一フロアに配し、急変時にも迅速に対応。血管撮影装置を装備したハイブリッド手術室、手術支援ロボット「ダヴィンチ」、IMRT(強度変調放射線治療)用装置Vero 4DRT等、最新の設備を導入しています。



ダヴィンチ

間仕切り家具を配した4床室

2



患者さんのプライバシーに配慮した療養空間

個室病室の増床に加え、多床室では間仕切り家具を配してプライベート空間を確保。また、外来診察室や検査室も中待合室を無くして個室化し、患者さんのプライバシーに配慮しています。

3



ダイニング

患者さんにも働く人にもやさしい高アメニティ

病棟には「井」型の平面形を採用し、東西各病棟のスタッフステーションが隣接して配置されているため、スタッフが連携しやすく、効率性と安全性が高まりました。また、検査部門を集約することで移動による患者さんの負担軽減にも配慮しました。

地域医療の要として最先端の設備を備えた本館

4



免震構造

災害にも強い安全で安心な病院

千葉県東総地域の病院では初となる免震構造を取り入れ、震災時にも医療を提供できる造りとなっています。非常用ガスタービン発電機の設置による自家発電機能の強化、石油の備蓄、地下水の浄化利用など、災害時にも対応できるインフラを整備しています。



ホスピタルモール

5



断熱性を高めるための屋上庭園

環境への配慮と省エネルギーへの取り組み

自然採光を積極的に取り入れるほか、屋上庭園を設けて断熱性を高め、空調負荷を低減しています。蓄熱水槽の設置や雨水の貯留など、省エネルギーに取り組んでいます。

高度医療の充実 (地域がん診療 連携拠点病院)

当院は2004年に千葉県で初となるPET画像診断装置を導入し、がんの早期発見・診断を推進しています。2009年の放射線治療棟の拡充に続き、2011年の本館オープン時には40床の外来化学療法センターを整備しました。内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」、IMRT（強度変調放射線治療）用装置Vero 4DRT等の最新の設備を導入するとともに、早期診断から外科手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアまで、包括的ながん診療を提供しています。



基幹災害 医療センター として

当院は、大規模災害において被災地内での迅速な医療活動の拠点となる基幹災害医療センターの指定を受けています。本館を免震構造にすることや、自家発電機能の強化、また、断水に備えた地下水の確保など、災害時でも平時に近いレベルの医療の提供が可能となりました。

また、専門的教育を受けた医師や看護師等で構成されるDMAT（災害派遣医療チーム）の養成にも取り組んでいます。



高度医療や災害にも対応できる充実した医療体制

24時間対応の 救命救急センター

当院は、「救急医療は医の原点」との考えのもと、1967年より地域の救急医療を支えています。1984年には救命救急センター指定を受け、三次救急のみならず、一次、二次も含め、全ての救急患者を24時間・365日体制で受け入れています。本館建設にあたっては救急医療態勢の強化を図り、救急外来とCT、MRI、血管撮影室や手術室を機能的に配置して、緊急の検査や手術により迅速に対応できる体制を整えました。



周産期医療の 充実

当院は千葉県で最初の地域周産期母子医療センターとして認可されました。産科病棟とNICUを集約し、ハイリスク母胎搬送、分娩管理、ハイリスク児の集中管理の連携を図っています。月間80～90件の分娩に対応するほか、院外で出生した病児の入院も受け入れており、新生児搬送専用救急車を整備しています。



地域医療 支援病院として

当院は2017年3月1日に地域医療支援病院の承認を受けました。紹介患者に対する医療の提供、救急医療の提供、検査機器共同利用の実施、及び地域医療従事者に向けた地域医療者（医師）懇談会や研修会等の開催により広く地域の医療・介護を支援するとともに、紹介・逆紹介を通じて二人主治医制を推進し、地域完結型医療の構築を目指しています。



地域医療者（医師）懇談会

地域とともに歩む病院としての さまざまな取り組み



病院まつり

地域に向けた 取り組み

当院では地域との交流にも積極的に取り組んでいます。「病院まつり」「市民健康講座」をはじめ、当院の医療従事者が地域に出向いて講座を行う「健康づくり出前講座」、院内コンサート、「看護の日」や「救急の日」のイベント、自治体主催の産業まつりへの参加など活動は多岐にわたります。また、児童虐待症例への対応や啓発活動、がん体験者や治療中の方を対象とした「がん患者サロン」などの活動も行っています。

こころの 医療センター

1965年の神経精神科開設以来のノウハウを集約した「こころの医療センター」を2012年4月に開設。児童精神外来と入院機能を整備し、子供からお年寄りまで一貫した診療を提供できる体制を整えました。訪問看護ステーションも併設し、地域に開かれた精神保健医療を提供しています。

地域医療 支援センター

2012年3月、千葉県地域医療再生プログラム(2009年度策定)に基づき、旭中央病院内に開設されました。現在、地域医療従事者に対する医療用シミュレータを用いた研修の開催などの教育支援（スキルセンター）、当院単独研究、多施設共同研究などへの臨床研究支援（臨床研究支援センター）等の役割を担っています。



教育・研修 について

臨床研修医の受け入れ

当院では1981年から臨床研修制度を導入。当初よりスーパーローテーション方式を採用して、幅広い症例を学べる環境を提供しています。



外国人講師の招聘

グローバルスタンダードを学ぶ機会として、米国・英国から年10名以上の教授・准教授クラスの医師を招聘し、指導を受けています。

海外研修機会の提供

3年目の後期研修医には海外の医療機関での研修機会を提供しています。米国の姉妹病院の希望専攻科へ、毎年4～5名が留学しています。

看護師の教育

看護局では、新人看護師の教育をはじめ、キャリアアップ支援にも力を入れ資格取得をサポートしています。院内認定制度も導入し、専門性の向上を推進しています。



その他の 取り組み

医療安全への取り組み

患者さんに信頼され、当院で安心して診療を受けていただけるよう、医療安全管理推進室を中心に院内の安全管理に努めています。

TQMセンター

TQMセンターは、医療の質向上、患者満足度の改善、院内連携の充実を目標に、臨床指標の設定・追跡・比較、QC活動の支援・普及、患者・職員満足度調査分析、横断活動部門支援を継続して行っています。

第三者評価について

ISO9001認証や日本医療機能評価機構による認定など、第三者からの評価を受けており、安心・安全な医療の提供を推進しています。



診療科のご案内

内科

当院内科は、総合内科としてスタートし、専門診療科が分化していく経過を辿ってきたことから、全ての内科系専門診療科の総称として「内科」と呼んでいます。内科における各専門診療科は以下にご案内するとおりです。

消化器内科

当院内視鏡室は年間、上部内視鏡13,000件以上、下部内視鏡約4,800件、内視鏡的膽胆管造影約1,000件を施行しており、全国的にみてもかなりアクティビティーの高い部門です。その他カプセル内視鏡、小腸内視鏡、超音波内視鏡など特殊検査も可能です。

循環器内科

あらゆる循環器疾患を対象として高度医療を行っています。虚血性心疾患（急性心筋梗塞・狭心症）、心不全、不整脈が入院患者の3大疾患となっています。心血管カテーテル治療を得意としています。

呼吸器内科

肺癌、肺炎、慢性呼吸不全、間質性肺炎など呼吸器疾患全般の診療を行っています。呼吸器外科とも連携を密にし、その他の診療科とも共同しての診療を心がけています。

神経内科

神経内科では、神経難病などの慢性疾患から脳炎や脳血管障害の急性疾患まで幅広い診療を行っています。手足の動かしにくさや物忘れ、めまいで受診される方が多いですが、多岐にわたり多くの疾患の診療を行っています。

総合診療内科

総合診療は、問診と身体診察を基本とし、一般的感染症、不明熱、脳血管障害、内分泌代謝、糖尿病合併症などの内科疾患、診断が不明、また、複数の専門科に渡る症例などを幅広く診療しています。

腎臓内科

千葉県東部、茨城県鹿行地域における腎疾患の拠点として、多数の腎関連患者の紹介を受けています。腎疾患の診断・治療・長期管理、腎不全治療および合併症管理を一貫して行える体制を整えています。

血液内科

造血器悪性腫瘍に対する化学療法を中心に、移植治療（自家移植、同種移植）、新規薬物療法など幅広く診療しています。近隣に血液内科を標榜する病院がないため、様々な疾患に対応しています。

糖尿病代謝内科

当院は約4,000人もの糖尿病患者が通院しており、当科では糖尿病専門医に加えて様々な医療職が一丸となって診療や合併症予防に従事しています。活動は院内にとどまらず、地域の健康づくりや生活習慣病を予防する取り組みも行っています。

アレルギー・膠原病内科

膠原病・リウマチ疾患、アレルギー疾患の専門医による最先端の高度医療を提供します。膠原病・リウマチ疾患では全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、関節リウマチなどを診療します。アレルギー疾患では主に気管支喘息を診療します。

人工透析科

透析装置155台を設備し、全国の透析施設の中でも単一施設としては最大級の規模を有しています。救命救急や集中治療に関する血液浄化療法の要請も多く、24時間体制で持続的血液浄化、血漿交換、血液吸着等を行っています。

化学療法科

がん診療拠点病院として、病棟と外来、化学療法センターとの継ぎ目のない治療を継続し、チーム医療の実践を重視しています。化学療法に特化した対応を行うことで患者さんのケアや副作用対策の向上を図っています。

感染症科

感染症科では地域で問題となる2類感染症（結核、ERS、新型インフルエンザ等）やHIV感染症の他、市中発症の重症感染症治療、院内発症の肺炎・尿路感染や医療関連感染症の診療を行っています。また、千葉県院内感染対策地域支援ネットワークの北総地域幹事病院として地域の医療機関と連携し、耐性菌やアウトブレイクを減らすことを推進しています。

外科

外科全体の手術件数は年間1,800件以上にのぼり、消化器外科・血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・甲状腺外科の各分野で専門的な診療を行っています。緊急手術も多く、当地域の救急医療の一翼を担っています。

消化器外科

消化器の悪性腫瘍（胃癌・大腸癌・肝癌など）及び良性疾患（胆石や虫垂炎など）に対して外科治療を行います。ヘルニアの日帰り手術から胃癌のロボット手術や肝胆膵の高難度手術に至るまで、多岐に渡る多くの手術を施行しています。

血管外科

腹部大動脈瘤（開腹手術と血管内治療）、破裂性腹部大動脈瘤（24時間体制）、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、下肢静脈瘤（炎症・血栓・潰瘍合併など重症例）、下肢浮腫、シャントトラブルなどを担当します。厳しい禁煙指導も行います。

呼吸器外科

当院は香取海匝地域で唯一の呼吸器外科認定修練施設です。手術の約半数は原発性肺癌が占め、他には転移性肺腫瘍・気胸・縦隔腫瘍などを扱います。気胸や膿胸などの緊急性のある疾患は、救急外来からの入院や他院からの転院も多く受け入れています。

乳腺外科

乳腺の良性疾患および乳癌に代表される乳腺の悪性疾患に対応しています。乳癌診療では乳房温存治療や乳房切除と同時再建、内分泌療法、化学療法や分子標的治療など、幅広い治療法に対応しています。

心臓外科

循環器内科と密接に連携しながら、緊急手術を含めて年間100件以上の成人心臓・大動脈疾患手術を行っています。また、右小開胸手術やステントグラフト手術などの低侵襲手術にも取り組んでいます。

脳神経外科

救急医療を担う部署として24時間手術ができる体制をとっています。脳血管内手術、未破裂動脈瘤など、年間500件以上の手術を行っています。血管造影装置を備えたハイブリッド手術室もあり脊髄以外のすべての疾患に対応します。

整形外科

外来では、外傷、脊椎疾患、関節疾患、感染症、腫瘍などの診療を行い、慢性疼痛に対して最新の治療を提供しています。入院は大腿骨頭部骨折が多数を占め、人工関節手術、脊椎手術の件数も増加しています。

リハビリテーション科

全人医療や包括医療による、急性期ベッドサイドからの集中した医学的リハビリ、集中したケアリハビリを、小児から老人まで全疾患を対象に実施しています。地域の介護や福祉との連携も図っています。

産婦人科

当院産婦人科は東総地区の周産期医療および婦人科腫瘍に対応し、年間分娩数約1,000件、手術件数約850件を担う県内有数の施設です。また、多くの研修やレクチャーを取り入れて、若手医師の育成にも力を入れています。

小児科

診療圏内で365日24時間重篤な小児が入院できる唯一の施設です。外来業務・病棟業務・保健業務（ワクチン接種や乳児健診）に加え、救急外来を受診する小児内科救急患者の初療から診察にあたっています。小児科専属の言語聴覚士・臨床心理士を有しています。小児科専門医研修支援施設に認定されています。

新生児科

NICU9床、GCU21床を有する周産期医療の中核施設です。年間260例以上の新生児の診療を担当しています。新生児搬送専用の救急車を保有しており、地域の医療機関で出生した病児も受け入れています。

泌尿器科

年間1,900件を超える手術を行っています。副腎・腎・尿路には内視鏡・体腔鏡、前立腺にはロボット支援内視鏡、レーザー・小線源、腎・尿管結石には対外衝撃波・レーザー等、なるべくお腹を切らず負担の軽い治療を行っています。

皮膚科

午前中は通常の外来診療、午後は外来予約診療、小手術、特殊検査、往診を行っています。夏場は患者数が多いため、待ち時間が2~3時間になることもあります。入院は皮膚悪性腫瘍の手術の他、蜂窩織炎、中毒疹、類天疱瘡の患者さんが多い傾向にあります。

耳鼻咽喉科

近隣に耳鼻咽喉科が数少ないため、当科では市中疾患を中心に幅広い疾患を取り扱っています。緊急手術も多く、特に若手の医師にとっては多くの臨床経験が積める施設です。

眼科

東総地区の基幹病院として眼科の緊急疾患や手術など視機能を左右する疾患を中心に診療を行っております。手術は白内障、緑内障、硝子体手術、眼瞼手術、斜視手術など多岐にわたる手術を施行しております。

形成外科

形成外科は新生児から高齢者まで、頭から指先まで幅広く治療対象としています。機能再建のみならず、形態治療も扱う科です。当科も外傷、腫瘍（良性、悪性、血管腫）、先天奇形（口唇口蓋裂、耳介奇形、手指奇形）、顔面神経麻痺、難治性潰瘍などあらゆる領域に対応しています。顕微鏡下の血管吻合技術を応用し、切断指や遊離複合組織移植術、リンパ管疾患に対する治療（リンパ管吻合術、リンパ移植）などに力を入れています。

麻酔科

全身麻酔で行われる手術や、全身状態に心配のある患者さんの局所麻酔を、年間4,000件以上担当しています。麻酔科医が常に手術室に待機しており、緊急手術にも対応しています。外来では、神経ブロックを含む痛みの治療を行っています。

神経精神科

児童精神、精神科救急、クロザピンやm-ECTを使用した治療抵抗性精神障がいの治療、包括的地域生活支援(ACT)等アウトリーチ、ハウジングサービスを、経験豊富な多職種でチームを組んで重点的にこなっています。

救急救命科

救急外来診療、重症患者に対する集中治療、救急医療教育、地域メディカルコントロール、災害医療の5つが柱になっています。一次から三次までの症例に24時間常時対応している救急外来、教育や地域救急医療体制の構築にも重点を置いています。

歯科・歯科口腔外科

顎顔面領域の外傷・炎症・腫瘍や顎関節疾患、顎変形症に対する治療などの口腔外科診療やインプラントを用いた補綴治療（入れ歯作り）を得意としています。院内外からの依頼による治療が大半を占めています。

緩和ケア科

身体的、精神的苦痛を含めた全人的苦痛の緩和を目指します。最期までその人らしい生き方ができるように、医師、看護師、診療技術部門スタッフ等が専門性を生かし、協働してケアを行います。

放射線科

一般X線撮影装置の他、CT4台、MRI3台、IVR-CTを含む血管撮影装置5台、多目的X線-TVシステム、PET-CT、SPECT-CT、リニアック治療装置（IMRT対応）を擁しています。画像診断ならびに各科との協力により血管内治療（IVR）・放射線治療を行っています。

中央検査科

当科は、常に技術と精度の向上を図りながら病気の診断や治療が遅滞なく行えるよう、24時間体制で迅速かつ正確な検査の提供に努めています。また各診療科の採血やICT等のチーム医療に積極的に取り組んでいます。

臨床病理科

臨床病理科では、生検・手術検体の病理診断を行うことで、個々の患者さんに適した治療方針の決定に貢献しています。また病理解剖による最終診断を行うことで、病態を解明し、医療の質を高めるべく各科と協力しています。

さまざまな現場で
専門性を持ったスタッフが
患者さんを支える活動に
取り組む



看護局

看護局では「一人ひとりに寄り添う癒しの看護」という理念のもとで日々の看護を提供しています。教育面では、専門職として知識や技術を高めることが不可欠と考え、6段階のクリニカルラダーと教育プログラムを用意し、院内研修やセミナーを実施し自己研鑽の場を提供しています。専門性を高めるために認定看護師資格取得や、特定行為研修受講などのサポート体制も整えています。各分野の認定看護師が、看護の質向上に貢献しています。同時に院内認

定看護師制度を導入し、現在、皮膚・排泄ケア及び感染管理の領域を学び実践に生かしています。病棟では、医師や多職種と患者さんを結ぶ役割として看護師の存在は欠かせません。認定看護師を中心に、病棟のラウンドをはじめチーム医療を推進しています。また、退院支援については各病棟看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー、訪問看護師などと情報を共有し、サービスの向上に努めています。



診療技術局

診療技術局は、医師・看護師・薬剤師以外の医療技術職から成る11部署を統合し、2012年4月に設置されました。検査部門、放射線・臨床工学部門、リハビリ・歯科部門、栄養・相談支援部門の4部門で構成され、国家資格を有する約300名が所属しています。当局では各職種の専門性を高めるだけでなく、職種の垣根を越えた活動により医療サービスの向上や病院事業への貢献度向上を目指しています。現在、各部署の代表者による会議を週1回、さらに出席者を増やした

月1回の全体会議を開催し、情報共有を行い、連携を図っています。また部署、部門に関係なく、合同で研修会、勉強会等を開催しています。ひとつの局に統合されたことで、他職種の業務内容を把握することが可能となり、連帯感が高まると同時に切磋琢磨できる環境が生まれました。今後は医療技術職としての専門知識や技術を高め、診療支援の質の向上を図るとともに、より良いチーム医療サービスの提供のために連携を深め診療技術局が一体となって取り組んで参ります。



薬剤局

薬剤局は、医薬品の供給や調剤はもちろん、医薬品に関わるさまざまな工程での安全性や有効性、および経済性への貢献を目指して活動しています。特に、抗がん剤の無菌調製やレジメン管理、血中薬物濃度解析、PET検査薬の合成等による診療支援をはじめ各種チーム医療、リスクマネジメントへの参画など、他部門と連携を図りながら薬物療法の質向上に努めています。



企画情報局

企画情報局は、経営企画室、医療情報室及び診療情報管理室により構成されています。主な業務は、病院の運営方針、経営戦略等の意思決定に必要な情報を発信することや医療情報システムの設計、稼働、運用の管理等です。また、診療録及び診療統計の管理も行っています。

事務局

事務局は、医療現場と密に連携し、病院事業の円滑な運営をサポートしています。行政や関連団体との連絡・協議や、健全経営に向けた予算やコストの管理、患者さんへの情報発信、患者さんの相談窓口としての機能、施設の維持管理など、皆様に安心して当院をご利用いただけるよう様々な業務を行っています。

附属施設

旭中央病院附属 看護専門学校



写真提供：旭市秘書広報課

1964年に千葉県で初めて2年課程の高等看護学院として開設され、現在は1学年2クラス（定員1学年60名）の生徒が3年課程に学んでいます。学校と病院が一体となり、「感じ、考え、自己を見つめ直せる実践者」を理念として教育に力を注いでいます。

介護老人保健施設 シルバーケアセンター



急性期治療後の回復期リハビリを担い、病院から在宅への橋渡し役となり、重点的に在宅復帰の支援をしています。在宅復帰後の介護支援のために通所や短期入所などの在宅サービスも提供しています。

旭中央病院附属 飯岡診療所



旭中央病院のサテライト・ステーションとして、週3日、半日の診療を交代制で行っています。受診者は安定期の高齢の方が中心で、採血、胸部レントゲン・心電図・腹部超音波検査を行っています。

養護老人ホーム 東総園 特別養護老人ホーム 東総園



養護老人ホーム（50名）、特別養護老人ホーム（50名）から成り、入居者が安心して生活できるよう、季節ごとの行事や活動を通して質の高い介護に取り組んでいます。

ケアハウス 東総園



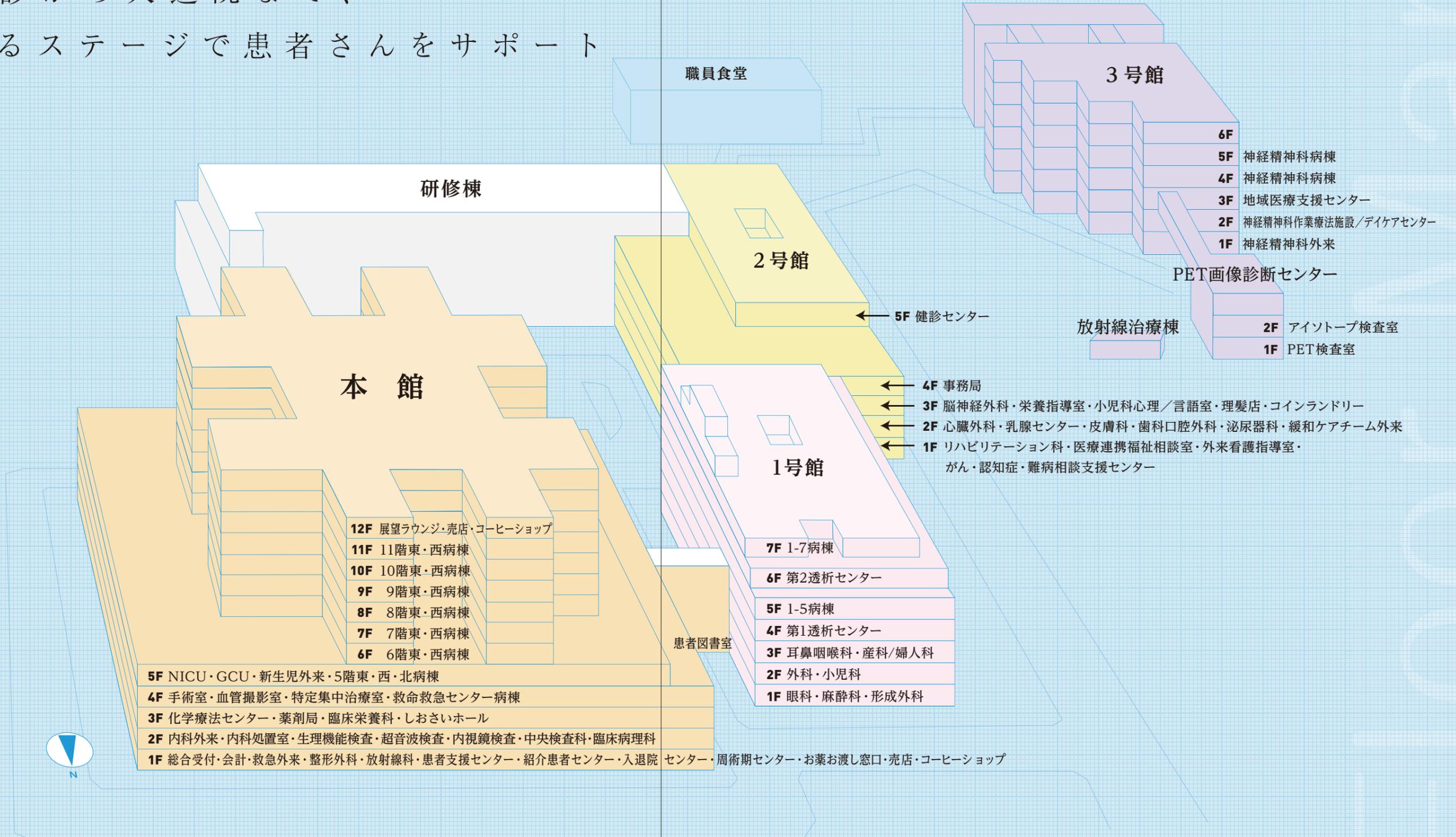
独立して生活するには多少不安があるが、身の回りのことはご自分でできる方にご利用いただいています。自立性を尊重し、各種の生活相談に応じています。

訪問看護ステーション 旭こころとくらしのケアセンター



精神科特化型の訪問看護ステーションです。訪問エリアは主に海浜地区を中心に地域と連携して支援を行っています。24時間対応体制をとっています。

外来受診から入退院まで、 あらゆるステージで患者さんをサポート



外来受診について

外来受診は受付から精算まですべて自動化されています。初診の方は受付にて受付票をお受け取りください。再診の方は自動受付機より受付票が発行されます。受付票が発行されたら、受診科外来にて到着確認を行い、お待ちください。診察が終わると会計番号票が発行されます。

入退院センター

必要書類の手続き、入院・退院に関する基本的情報の提供、相談業務等を一元化しています。看護師を配置しているため療養生活や、がん等の相談も可能となり入院前から患者さんを支援しています。事前に情報収集を行えるので、病棟との連携がスムーズになりました。

周術期センター

手術前(術前検査～入院までの間)の準備を総合的にサポートする「周術期センター」を2016年に開設。センターでは周術期に関わる多職種が連携して、患者さんとともに手術の準備を整えることで、より「安心・安全な」手術、手術後の順調な回復・社会復帰を目指します。2018年4月現在、一部の症例のみに対象を限定していますが、今後他の疾患や診療科にも拡大していけるよう検討を進めています。

患者支援センター

患者さん・来院者に必要な対応を適切に提供できるよう、相談窓口を明確にご案内することを目的とし、2018年4月、本館1階に総合相談窓口・総合受付・文書窓口で構成される「患者支援センター」を設置しました。また患者さん・利用者の支援を行う各部署(患者支援センター、医療連携福祉相談室・広報患者相談課・ボランティア支援・入退院センター・周術期センター・地域生活支援室)を新たに「総合患者支援センター」と位置づけ、連携を強化することで、患者支援機能の充実を図りました。



健診センター(人間ドック)について

健診センターは日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」(Ver3.0)の認定施設です。各領域の専任スタッフが、最新の医療機器にて検査を行います。検査の結果異常や病気が発見された場合には、当院専門診療科で精密検査や治療を受けることも可能です。2日ドックをご利用になられる方には、オプションで脳ドックやPET画像診断などの検査を受けていただけます。